

## 彝族の自然認識 — 気象および季節感と防風儀礼に注目して —

安室 知\*

### 1. はじめに

中国四川省大涼山彝族自治州美姑県に居住する彝族の自然認識について、とくに雨や雪、風といった気象現象と季節感に注目してみていくことにする。

ここに記した5ヶ所の調査地は、標高や地勢などそれぞれ立地条件が違うため同じ調査項目でもその自然認識のあり方についてはかなりの違いがみられる。そのため、安易にひとまとめにすることなく調査地ごとに調査データを記していく。

なお、本文中で用いた月日の表記は特別のことわりがない限りすべて農曆である。また、イ語は調査者が聞いたままの音をカタカナで表記したものである。そのためアクセント等が不正確なものとならざるをえなかった。

以下、調査地、調査日、被調査者を記しておく。

①調査地：巴普鎮基偉村

調査日：1995年9月23日

話者：馬看依格（調査当時54歳，男），馬黒子形（53歳，女），吉朶羅格（男）

②調査地：巴普鎮三合村

調査日：1996年9月9日

話者：瓦西木石（48歳，男）

③調査地：合姑洛郷洛覚村

調査日：1996年9月10日

話者：阿作白石（67歳，男），阿西干干（58歳，男），吉巴拉門（54歳，男）

④調査地：農作郷甲谷村

調査日：1996年9月14日

話者：惹格尔牛（64歳，女），来海阿鉄（64歳，男），俄木阿曲（53歳，男）

⑤調査地：巴普鎮打工村

調査日：1996年9月17日

話者：曲比洛戈（44歳，男）

### 2. 気象に関する民俗的認識

(1) 打工村の場合

---

※横須賀市立人文博物館

## ●雨風雪など気象にみる一年

### • 2月：シグ（春の突風）

2月は強い南西風が吹く。その風をイ語でシグと呼ぶ。シグとは春の突風の意味である。シグは比較的暖かい風であるが、天気により寒い風になることもある。シグは雨を伴うことはなく、シグの期間は雪は降らない。

シグは1ヶ月間にわたって吹く。最初の頃は毎日吹くが、最後の方になると、1日おきに吹くようになる。シグは最初（1月の終わりから2月始め頃）は山の上の方で比較的ゆっくり吹いている。実際に村まで風が吹いてこなくても山の上の方から風の音が聞こえてくる。

シグは強く吹くため、砂を舞い上げ草地を倒す。とくに最後に吹くシグは強く、煉瓦の建物をも壊すといわれる。この時期には農作物は植えられていないため、農作物への影響はない。シグが吹き止むと春になる。3月になっている。

シグが終わると、雨が降り始める。霧のように細かい雨である。毎日ではない。しかし、1ヶ月間毎日のように降る場合もある。この雨のことをイ語でマハと呼ぶ（ただし正確にこの期間の雨のことだけを指してそう呼んでいるかは不明）。

シグの終わりにはアブという鳥の鳴き声「アブ、アブ」が聞こえる。アブ（漢語では戴勝鳥）は、15cmほどの体長で、頭部に羽がたっていて嘴が二つあるように見える、羽が白と青と黄の混ざった色の鳥である。

### • 3月：バジョハンゼ（みぞれ）

2月にはシグが吹くため村の雪はほとんど解けてしまう。3月は山の上の方にだけ雪が残っている状態である。しかし、3月は雨も降れば、雪も降る。そのため、3月の頃をバジョハンゼと呼ぶ。バは雪、ジョはかたまり、ハは雨、ゼは混じるの意味で、雨も降れば雪も降るまたはみぞれの季節という意味である。

バジョハンゼの期間には2種類の風が吹く。ひとつは北東風で、冷たい風である。これが吹くとすぐに雨や雪が降る。もう一つが南西風で、暖かい風である。この風が吹くと晴れになる。全体的には南西風が吹くことが多い。どちらの風もシグのように強く吹くことはない。

バジョハンゼは西暦4月20日まで続く。バジョハンゼがすぎると雪は降らず雨だけになる。一般に、バジョハンゼ後は11月まで晴れの日が多くなる。ただし雨がまったく降らないわけではない。

### • 6月から7月：ジドゥタ（洪水期）

6月から7月にかけてはジドゥタの季節である。ジは水、ドゥはみなぎる、タは季節の意味である。この時期が夏ともされる。この時期は雨が多く、時として大水がでる。

### • 8月から11月：ツズ（秋雨）

ジドゥタが終わり8月になるとムツァである。ムツァは8月から11月までの期間のことをいい、ちょうど日本語でいう秋に当たる。ムツァになるとハノ（竜巻）はもう来ない。ツズと呼ぶ秋雨が降る。ツは秋、ズは雨である。ツズは毎日降るようなことはないが、1回に降る量は多い。こ

の季節は風はあまりない。

雨のために多少トウモロコシの収穫に影響がでることもあるが、基本的には雨風による農業への被害はない。(ただし、打工村ではないが、ツズにより川が増水して仕掛けてあったヤナが流されるといふ被害がでた。)

• 11月から2月：バ（雪）

ツズの降るムツァが終わり11月10日以降になると、フスという木が真っ赤に紅葉する。また、11月20日（雁が南に飛んでいくのが目安）以降になると、バ（雪）が降り始める。この11月10日から20日までが彝族の正月である。この11月10日から2月までがムツゥである。ムツゥとは日本語でいう冬に当たる言葉である。

ムツゥの期間はこの辺は風もなく暖かい。雪が降っても3cmほどしか積もらず、それも3日間で消えてしまう。普通は、雪は夜間にしか降らないが、日中晴れると日の光に当たってすぐに融けてしまう。ただしかつて50年前には、9日間も連続で雪が降ったことがあり家畜に被害がでたことがあった。雪が積もっていると家畜を畜舎の外に出すことができないため、畜舎で餌を与えずにはならないが、例年この辺りではそれほど多くの飼料の備えをしないからである。こうした被害がでるほど雪の降ることは大変に珍しいことである。

そうして、そのうちシグが吹いてくるとムツゥは終わりである。

\* ハノ（竜巻）

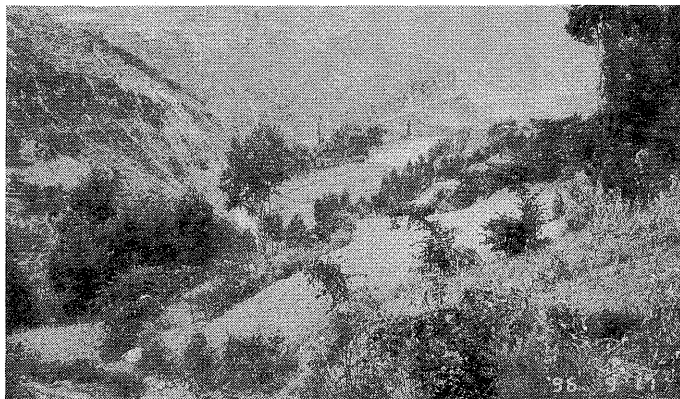


写真1 四川省大凉山彝族自治州美姑县巴普镇打工村は三方を山に囲まれた山間地にある。

6月から7月にかけてのジドゥタの時期には竜巻の風が吹く。その竜巻の風をハノという。ハは風、ノは黒い（悪い）の意味で、この風が吹くと作物がなぎ倒され農作物に大きな被害がでる。とくにトウモロコシにはよくないとされる。強いときには大木でさえなぎ倒される。

ハノは南東方向から吹いてきて、北西の山に当たり、この村の辺りで左回りに渦を巻く。この辺りが低くなっているためである。ハノは毎年起こる。この村に来ないときは他の村に来ている。

\*ハアトウハトウ (風除儀礼)

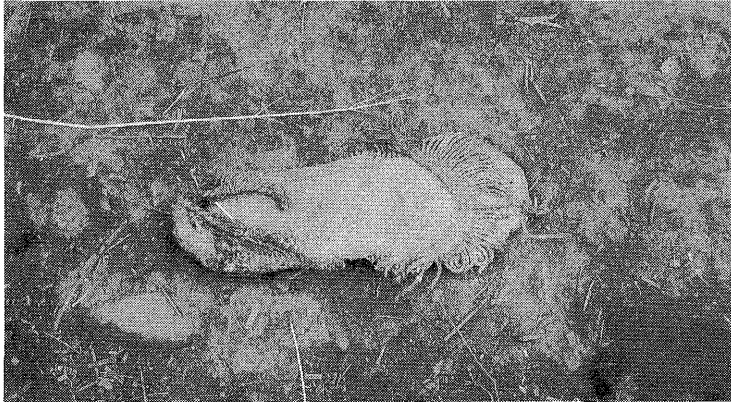
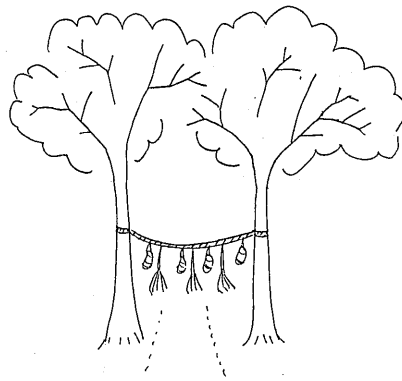


写真2 ハアトウハトウ (風除儀礼) にはこうした草履が用いられる。



第1図 ハアトウハトウ (防風儀礼) に伴うジシラワティ (道切り)

※聞き取りから作成した想定図

村では6月になると必ずハノ除けの儀礼を行う。この儀礼をハアトウハトウといい、ピモに頼んで行く。用いる教典はハアトウハトウ経である。ハアトウは風を防ぐ、ハトウは雨を防ぐの意味である。儀礼には1羽のニワトリを犠牲にする。通常ピモの儀礼には多くの犠牲や御札を必要とするが、犠牲がニワトリ1羽で済みしかもピモへの御札は不要であるのは、この村は同一の家支から成っておりしかもピモがその家支の中に大勢いるからである。もし他の村から招いたピモであれば、本当にその年ハノが来なかったら、収穫後に各戸から少しずつ収穫物を出し合って御札としてピモに上げる。頼むピモは毎年とくに決まっているわけではなく、たまたまそのとき手の空いているものがあたる。

儀礼は朝、太陽が昇ってから行う。村の各戸から一人ずつ大人がでて行く。それぞれ使い古しの壊れた箒と草履を持ってきて、ハノを罵り歩く。その後各戸から持ち寄った箒と草履を集めて

村のまわりに置いていく。ピモはそのとき山の上からハットゥハットゥ経を唱える。草履や箒を置く場所は村境である。村境の道を挟んで両側の木に第1図のように吊す。ハノがやってくる南東側にもっとも多く草履と箒を集めて、余ったものがあれば村のまわりの他のところにも置いた。図にあるような仕掛けをジシラワティという。ジシは草履、ラワは箒、ティは掛けるの意味である。ジシラワティを掛けるときもハノに対して悪口を言いながら掛ける。ジシラワティに用いる草履や箒は使い古して壊れたものほどいい、それはもっとも汚いものを掛けると風が嫌がってやってこないからだという。こうしたことを村中（約500戸）あげて行う。

〈ジシラワティの時に唱える言葉〉

「シー シ ジェロ トラマ ハブ トラマ スム ラ ハジェ ムメ ハタジェ」  
風 放せ 雹 来るな 嵐 来るな 他所 行く 雨降 我所 雨降るな

(他村へ行け)

この村は3つの村と接している。ただしすべてに道が通じているわけではない。他の村でもハットゥを行うが、同じ境で行っている（その村にとっては方角が異なってしまう？）。道がないときには山の中で行う。ハットゥハットゥの飾りは必ずしも道で行うとは限らず、風の吹いてくる方角の村境で行うことが多い。

村境をデブという。デは少し高い所、ブは碑の意味であるが、実際に碑は存在しない。山の稜線が村境になっていることが多い。かつて村境を通る道（こちらの村から隣の村へ通ずる道）には、道の真ん中に大きな石が置かれていた。その石をアサという。アは石、サは印の意味である。しかし今はそうした石はない。なお、ハットゥハットゥのときはその石に対して特別なことは何もなかった。

## (2) 基偉村の場合

### ●雪

雪はこの村では11月に降り始め、12月がもっとも多く降る。今まででもっとも降ったときで膝下まで積もったことがあるが、通常はくるぶしぐらいまでである。雪が降るのは2月頃までで、3月以降は降らない。そうなるとジャガイモを植える。

雪の降る前触れ。雪の降る前にはアジャジャと呼ぶ鳥が飛び回る。また山の上にいる野生のニワトリが村まで下りてくる。

### ●雹

雹は4月から6月にかけて降ることがある。今年（1995年）は4月7日と5月27日の2回降った。

雹は農作物に悪い。

雹は漢族が道を通すために山を爆破したり、木をたくさん伐ったりしたために山の神が怒って降らせた。

雹は何の前触れもなく突然に降るため、屋外にいるニワトリや山に羊の放牧に行っている子供がけがをしないか心配である。

#### ●雨

雨の特徴。4月の雨はヘイチジといい、小雨である。6・7月の雨は、ハマチュといい、土砂降りを意味する。8・9月の雨は、ハシブといい、霧雨を意味する。そうして9月以降は雨が降らなくなる。11月にたまに小雨が降る程度である。

一年の内では6月・7月がもっとも雨が降る。この季節をジブパという。ジは雨、プは滝、パは生まれるの意味である。

ジブパの始まりの前兆として、鳥の鳴き声が全体に大きくなる。野生のニワトリには3種類(ソ、ハ、ニ)あるとされるが、それぞれ鳴き声が変わる。ソは「ツッ・ツル」、ハは「ツッシ・ツッシ」、ニは「アッ・アッ」と変わる。

またジブパが終わる前兆としては、ヘビが穴に入り、ガマガエルの姿を見かけなくなる。

#### ●雨季と乾季

前述の雨期を意味するジブパに対して、冬期の雨の降らない季節をムツハマゴという。ムツは冬、ハマゴは雨が降らないの意味である。

#### ●村の災害

この村に起こる災害は、大雨や雹といった程度の比較的小規模なものばかりである。傾斜地にあるものの地滑りなどの被害はない。また風による被害もない。過去伝染病も発生したことはない。

ただし、過去に一度、1987年6月に大雨により作物がほとんど流されてしまったことがある。しかしこれは半分は人災である。山の上の方にある村(雷波と天喜)では山の木をたくさん伐って屋根葺き用の板を作っていたが、人民政府がそれを罰して板を没収してしまった。そのためその村ではピモにお願いして土砂降りの雨を降らせて、山の下の方にある人民政府を困らせようとした。そのとき人民政府に近いこの村まで巻き添えを食って災害が及んだのであるという。

### (3) 三合村の場合

#### ●雪

この村には雪は11月中旬に降り始める。雪の前触れとしては、ひとつに急に寒くなること、二つに雲が厚くなること、そして三つに風が吹いてくることが上げられる。その風をウマヘプという。ウマヘが風、プが起こすの意味である。

この前兆のうちひとつでも当てはまると雪の季節の到来である。雪の季節になると、標高が1,800メートルとそれほど高くないこの辺りでは、まず河谷に雨が降り、続いて小雪が降ってくる。それに対して、ここよりも標高の高い高山地の村では、直接雪が降るようになる。

雪は2月がもっとも多く降る。3・4cmぐらい積もる。標高2,080メートルある美姑県城では7cmも積もったことがあるが、そうしたときでもこの村は高度が低いと降らない。雪

が降るときがもっとも寒く感じるが、そうしたときには畑も凍る。

この辺りでは一番高い山には4月まで雪が残る。雪の残り具合を見て農耕の開始を判断したり季節感を語ることはない。

#### ●霜

とてもよく晴れた日の翌日は霜が降りる。3月中旬、トウモロコシの作付けをした直後に霜が降りて被害がでたことがある。

#### ●雹

4月から6月にかけて雹が降る。トウモロコシ、ジャガイモ、ソバ、豆類に悪い影響がある。現在は雹を防ぐために政府が気象用の大砲を撃つ。

#### ●雨

この辺りは6・7月に雨が多い。

春から夏にかけての雨はその降り方でハズブとハフに分かれる。ハズブにはわか雨程度のもので、4月から8月にかけて降る。またハフは嵐のような大雨のことをいい、おもに7月にある。

また秋になるとグチジが降る。グチジは霧のように細かい雨で、いったん降り出すと5・6日続く。グチジの多い年はトウモロコシの収穫が悪くなる。

全体に雨が多い年は、油麦と稲は良いがその他の作物には良くない。

今年は大雨による被害が牛牛坦、峨曲古、柳洪であった。今年はこの村でも小さな土砂崩れがあった。

なお、晴天続きだと多少トウモロコシに影響がでることがあるが、基本的にこの辺りには干魃はない。

#### ●風

一年を通してみた場合、この辺りで特徴的な風は、イズブとアホプの二つがある。イズブは3月から4月にかけて吹く東南の風で、アホプは10月から2月にかけて吹く東北の風である。イズブのイズは、東南から吹いてくる風の名前(?)、ブは吹くの意味である。またアホプのアホは東北から吹いてくる風の名前(?)、プは吹くの意味である。

3月から4月に吹く風のうちとくに強く吹く風をシグと呼ぶ。秒速4メートルを超える東南の突風である。屋根をひっくり返すほど強く吹いたりする。6・7月にもシグが吹くことがあるが、そうするとようやく人の背丈ほどに成長したトウモロコシが倒されてしまうことがある。

なお風はイ語でムハという。

## 2. 季節感に関する民俗的認識

### (1) 打工村の場合

#### ●季節感

一年を、ムツウ、ムニ、ムツァの3つの季節に分けている。ムツウのムは天、ツウは冬を意味する。ムニのムは天、ニは春を意味する。ムツァのムは天、ツァは秋を意味する。

なおイ語で表現するムツァ、ムニ、ムツァは日本語でいう冬・春・秋と単純に一致させることはできない。ここでは便宜的に、ムツァは冬、ムニは春、ムツァには秋を対応させたにすぎない。また晴れのことをイ語でムツァというが、秋を意味するムツァとの関係は不明である。

夏をとくにムシと呼ぶこともあるが、基本的には夏と秋は一緒である。季節として夏と秋との変化は少なく、ムシ（夏）をいわずにムツァ（秋）で代表してしまう。もともと彝族には夏という観念がなかったともいわれる（?）。

#### ●季節の移ろい

季節の移ろいを示すものは、先に示した風や雨といった気象現象の他に動物が重要である。なお、虫は季節の移ろいを感じさせるものとはならない。

夏（春）から秋への移り変わりを感じさせるものとしては、ハツアニと呼ぶ紅色の小さな鳥が上げられる。ハニアツが「チ、チ、チ…」とさえずり始めると秋である。

また春から夏（秋）への移り変わりを感じさせるものとしては、ホトトギスのさえずりとツツジの花がある。3月に班鳥（野生のハト）が鳥としては最初に鳴き出し、続いてホトトギスが鳴き夏（秋）になったことを知らせる。

また冬の訪れを感じさせるものとしては雁の存在が上げられる。雁が高い山を越えて南に飛んでいくのを見るとそろそろ冬が来るといい、反対に雁が北へ行くのを見るとそろそろ夏だという。

### (2) 基偉村の場合

#### ●季節感

一年はニカ・ウニ・ムシ・ムツの四季に分けられる。

ニカはそろそろウニ（夏）になるという意味で、日本の春に当たる。ウニは暖かいという意味で、夏に当たる。ムシは収穫の季節の意味で、秋に当たる。ムツのムは天気、ツは豊の意味で、収穫後の豊かさを意味し、冬に当たる季節だと考えられる。

なお、打工村の場合と同様に、ここでも便宜的に季節感を示すイ語表現に日本語でいう春夏秋冬を当てはめたものである。

#### ●季節の移ろい

ニカ（春）の始まりを告げるものとしては、たくさんの鳥の鳴き声 that 上げられる。ツツバス、ジツ、ブジバ、キルケアホ、ブチュといった鳥がいつせいにニカになるとさえずり出す。またツホという花もニカになると咲く。

ウニ（夏）の始まりは、アバ（イ語）やカッコウといった鳥の鳴き声 that 告げる。またウニになると、ブジ（漢語では「英干子」）という虫が鳴き出す。また、ツツジ・スモモ・モモの花が咲く。

ムシ（秋）の始まりは、鳥の鳴き声 that 聞こえなくなり、またブジの鳴き声もやむことで分かる。また、山の上の方にいろいろな花が咲いて見えるようになる。

ムツ（冬）の始まりは、アザザという鳥が鳴きだし、また山にいる野生のニワトリが家の近くに下りてくることで分かる。ムツになると、村にはほとんど花が無くなるが、ブガという植物に



だけピンクと白色の小さなラッパのような形の花が咲く。

●農耕の目安

イサザの花が咲くと、ジャガイモやトウモロコシの植え付けである。

野生のニワトリが鳴き、スモモの花が咲くとトウモロコシの植え付けである。

(3) 三合村の場合

●季節感

現代の感覚では、春は3月から、夏は6月から秋は8月から、冬は12月からである。

秋になると、木の葉が黄色くなり、鳥の鳴き声が聞こえなくなる。なお、季節感には虫の声は関係ない。また、冬の兆候としては、急激に寒くなる。

●農耕の目安

イサザという草が沼に生えてきて花を咲かせる。これが春一番に咲く花。これが咲くと農作業を開始する。2月上旬から中旬にかけての時期である。

2月下旬、柳の木に芽がでてその若葉でチャオマイ（蕎麦）の実が包めるくらいになると、チャオマイの播種である。

またチャオマイ（早ソバ）の播種とジャガイモの植え付けとは同じ時期に行う。ジャガイモと早ソバとは同じ畑では作らず、ジャガイモを作付けた畑には、8月に秋ソバを蒔く。

トウモロコシの播種の目安は3月杠鶉鳥が飛ぶころ。たとえまだ寒くても3月中旬になるとトウモロコシの種蒔きをしてしまう。寒い年には畑に草をおいて土を暖めてから蒔く。

(4) 洛覚村の場合

●季節感

彝族には伝統的には2季しかない。つまり一年をンニとムツァの2季に分けている。ンニは1月から7月にかけての時期をいい、ムツァは8月から12月の時期をいう。

さらにンニを、ニハソレとスハソレの2つに分けることもある。ニハソレは、ニが春（便宜的にそう呼ぶ）、ハは接続詞（？）で意味なく、ソが3、レが月を示すもので、つまりニハソレとはンニのうち最初の3ヶ月間である2・3・4月（1・2・3月か？）を意味する。また、スハソレは、スは夏（便宜的にそう呼ぶ）、ハは接続詞（？）で意味なく、ソは3、レは月を示すもので、つまりスハソレとはンニのうちの後半の3ヶ月間である5・6・7月を意味する。

(5) 甲谷村の場合

●季節感

イ語で表現される季節感を日本語の四季に対応させると、春はムニユ、夏はムス、秋はムツァ、冬はムツとなる。

この他、一年を日本語でいうところの農閑期と農繁期とに分けて表現することがある。11月・

12月は農閑期に当たり、イ語ではサという。サは暇の意味である。反対にそれ以外の月は、シャといい、農繁期に当たる。シャは忙しいの意味である。

### 3. 地勢に関する民俗的認識

#### (1) 洛覚村の場合

##### ●耕地

畑は糞地と山地の2つに分類される。これは漢語による分類で、イ語では糞地はウンボと山地はウンディに当たると考えられる。この辺りではウンボが30パーセント、ウンディが70パーセントである。なお焼畑はない。

また、税率のちがいがから、畑は第1級、第2級、第3級と3分類される。これは人民政府ができてからのものであり、彝族の伝統的な分類ではない。

##### ●畑と地形

イ語で畑はウンドウという。

山の斜面にできた勾配のきつい畑を、ジャジャ（ジャジャウンドウ）という。ジャは坂（傾斜）の意味である。

なだらかな傾斜地の畑を、ジャグという。ジャは坂、グは平らを意味する。

平らな畑をジョバという。ジョバは平野の意味。

川沿いの畑をジブクという。ジは川、ブクが辺を意味する。

家の近くにある畑を、イクイラまたはイクイラツダという。イクイラは家の周りの意味で、ツダは豊の意味。イクイラは肥えた土地（糞地）で、たえず堆肥が入れられる。これ以外は山地ということになる。

#### (2) 三合村の場合

##### ●耕地

耕地は、ウンボ（良い土地）とウンディ（悪い土地）の2つに分けられる。ウンは土、ボは良い、ディは悪いの意味。ウンボは屋敷のまわりに多くあり、土地を深く耕したり肥料を多く入れたりいろいろと手をかけて土が良くなるようにしたところである。それは政府の要求でもある。

それに対してウンディは村から遠いところにある。ウンディは開墾地で、石が多く、肥料を入れない。標高2,100メートル以上（3,000メートル以下）のところでは灌木を焼いてその灰を肥料にして作物を栽培することが行われているが、標高の低いこの村では焼畑は行われない。

ウンディにはソバを植える。またソバを植えたあと2年から3年の間土を休ませてから黄豆や四季豆を栽培する。ソバは早ソバ（2月播種—7月収穫）と秋ソバ（8月が播種—11月収穫）の2回同じ畑で栽培することができる。またジャガイモを作付けしたときには秋ソバを植える。それに対して、ウンボには毎年トウモロコシを栽培する。